

農繁期

レポート

令和2年 8月号

エースファーム

オーナー 株式会社エース

水田面積 20.1アール

保証量 玄米 905kg

形態品種 特別栽培コシヒカリ



生産者 高橋 秀紀さん

長かった梅雨が明けたとたんに猛暑が続き、8月はほとんど雨が降りませんでした。8月4日に稲穂を確認しましたが、例年より一週間ほど遅れています。現在は稲穂も重たそうに垂れてきて、順調に実って来ているように感じていますので稲刈りは9月後半になると思います。これからは台風が心配されますが、後1ヶ月無事に過ぎるよう願うばかりです。今年の稲作りも終盤です。最後まで頑張ります。

8月の作業内容と稲の成長

1. カメムシ防除

お米にとって天敵であるカメムシは草がある所に発生します。稲の穂が出始めると水田内に侵入し、穂に口針を突き刺して汁を吸ってしまいます。それを防ぐためにこの時期に畔に近い水田周辺に最小限の薬を撒いて対応します。

2. 畔の草刈り

最後の草刈りをこの時期に行います。特にカメムシを水田内に飛散させないためにも発生源である畔の雑草は刈り取る必要があります。刈っても刈ってもすぐ生えてくる雑草との闘いは毎年農家さんを悩ませています。

出穂(しゅつすい)

茎の中で籾(もみ)が集まり「穂」が出てくる時期を「出穂期」と呼びます。出穂後に稲は葉で光合成をしてブドウ糖を生産し、穂に送り溜めたものが私たちが食べているお米です。そのため、出穂後の晴天は非常に重要になります。

光合成と水の管理

お米の収穫量に大きく左右するのは光合成です。葉っぱでしっかり光を浴び、土中から水分を吸い上げ、お米を作り上げていきます。また、間断かん水といって数日ごとに水を出し入れし、酸素供給と根の発育を促進させています。

